

目 次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋創一

東京大学教授 文学博士 佐藤信

第一章 真田氏と武田氏

第一節 真田氏の祖先は

なぜ六文銭が

全國に名を知られる

郷土の誇り

海野氏の直系?

海野氏の姻族

幸綱か幸隆か

3

第二節 幸隆 武田氏の家臣に

一 海野氏の滅亡

海野平の合戦 棟綱上州へ逃亡 幸隆も上州へ 長野業政の下へ

7

二 武田信玄の下へ

信玄家督を継ぐ

信玄信濃侵攻開始

幸隆信玄の配下に

9

第三節 武田氏の配下での勢力拡大

一 幸隆砥石城攻略	上田原の合戦	敗戦処理と失地回復	砥石城攻めへ	砥石城の乗取り	13
二 本領への復帰	葛尾城自落	小県郡の村上残党退治	本領復帰と人質提出		18
三 川中島合戦への参戦	川中島合戦への参戦				20
四 川中島合戦の始まり	尼厳城在番と海津城築城	永禄四年の激戦			24
五 上野吾妻郡への進出	滋野一族が繁栄の地	『加沢記』による通説への疑問	本拠地岩下城の攻略	武田側の拠点岩櫃城と真田	
六 西上野から駿河へ	上野箕輪城と白井城を攻略	武田家内紛	駿河へ侵攻開始	幸隆、信綱父子吾妻郡を死守	27
七 北条との同盟再成立	北条との同盟再成立				
八 信玄と幸隆の死	信玄の上洛の夢と死	後継者勝頼と周辺大名の反応	幸隆の死		
九 信綱の家督相続	信玄の上洛の夢と死	後継者勝頼と周辺大名の反応	幸隆の死		32
十 信綱、昌輝兄弟と長篠合戦	信州先方衆最大の軍事力	長篠合戦と信綱、昌輝の死			
十一 昌幸の真田家相続と任務	昌幸の真田家相続と任務				
十二 昌幸の相続	真田氏は武田の譲代に	白井城代			
十三 沼田城攻略と領内経営	沼田城攻略	沼田と甲斐を行き来	海野兄弟を討伐		36
十四 上杉氏の相続争い	上杉氏の相続争い	岩櫃を本拠に沼田攻め	沼田城攻略		38
十五 武田氏の滅亡	織田軍の進撃と離反	減亡時の逸話			

第四節 上田築城以前の本拠地

一 真田の館跡

古銭と堀跡 絵図は語る

44

二 御屋敷の発見

47

『真田氏給人知行地検地帳』 田畠と屋敷

町の構造

広山寺の遷り変わり

町の成り立ち

三 本拠地の全体像

53

本拠地の在り方

山家神社と長谷寺

横尾と信綱寺

砥石城とその城下

第二章 真田氏の自立と所領拡大

第一節 真田昌幸の自立への苦悩

59

一 北条・織田への臣属打診

59

事前に北条氏に臣属打診 信長に臣属の意を伝達

二 北条氏直へ出仕

60

織田信長の死 小県は徳川・北条・上杉の草刈場

三 徳川家康に臣属

62

弟信昌等の勧説 家康からの安堵・宛行

第二節 真田昌幸の小県郡統一

63

一 小県郡統一に着手

63

家臣への安堵・宛行開始

祢津昌綱を攻める

徳川と北条の和議と対立、信蕃の死

目 次

二 上田城築城	依田窪地士と丸子で合戦	67
	北信の上杉勢力を侵食 尼ヶ淵上に築城開始 築城と領内経営	
三 小県郡の統一成る	昌幸沼田譲渡を拒絶 一年余の空白期間 上杉景勝に臣属 室賀謀殺の逸話	69
第三節 真田氏と徳川・北条・豊臣氏		72
一 徳川軍の上田来攻		
	徳川軍と上杉援軍 神川合戦の戦況概要 徳川軍の丸子城攻め 徳川軍の滞在と上田城完成	
	徳川軍の信濃撤退	
二 北条軍の沼田攻め		
	秀吉に接近 上杉への援軍要請 エール交換の逸話	
三 家康に出仕		
	自領を固める 秀吉の戦略転換 真田を政争の具に 家康に出仕	
四 沼田領は北条へ		
	沼田譲渡は上洛条件 秀吉の裁断 信幸と信繁	
五 小田原攻め		
	沼田譲渡は上洛条件 秀吉の通告と北条の言い訳 小田原総攻撃	
六 秀吉から所領安堵		
	北条が名胡桃を侵攻 秀吉の通告と北条の言い訳 小田原総攻撃	
配置替え中の例外 父子の個別統治 朝鮮出兵と分担 京都伏見城の普請役		
	85 82 80 77 75 72 72 69 67	

第三章 上田築城と城下町の形成

第一節 上田築城

一 築城の始まり

(1) 盆地中央への築城

武田氏滅亡の翌年に築城開始

盆地中央の平城

(2) 境目の城としての築城工事

徳川方の前線基地

上杉方の前線基地

真田昌幸命名の上田城・上田

二 上田城の縄張り

(1) 尼ヶ淵にのぞむ上田城

縄張り 段丘崖上の城

古城の堀

堀口十五間

城の鬼門よけ

(2) 河道の利用とその付け替え

旧河床利用の大水濠 外堀となつた矢出沢川

三 真田氏時代の上田城

(1) 真田氏上田城の瓦

織豊系城郭信濃に出現

上田城跡出土の桃山期瓦

金箔押しの鰐瓦や鬼瓦

菊花文の軒丸瓦ほか

(2) 真田氏上田城の建造物

本丸の建造物

天守閣は

二の丸北西隅櫓ほか

その他の建造物

四 慶長の上田城破却

在番の手で破却

畠になつた上田城

第二節 上田城下町の形成と整備

一 真田昌幸による城下町形成

(1) 海野氏の本拠地の移転

上田中心街の形成 真田氏海野嫡流説 本海野からの寺社の移転 本海野の海野町を上田城下へ

(2) 惣構の内の城下町

惣構 願行寺の位置

二 真田信之による城下町整備

(1) 町人町の整備

「原町」の最初の史料 海野町・原町通りの確定 錛治町・紺屋町の形成 上田町

(2) 城下囲いの村々

城下囲いの八か村 鏡衆・鏡町 条里的遺構の名残

(3) 侍町の整備

陣屋支配 連歌町 新参町ほかの侍町 侍町は「ちよう」町人町は「まち」

(4) 寺社の配置

真田氏当時の城下の寺社 大英寺の創建

三 上田城・城下町用地の接收

農村風景が広がっていた上田城、城下町用地 上田領惣貫高寄帳にみる接收地 接收地覚え書き

九割以上真田氏時代に形成 常田庄の常田・房山 城下町の外に移された寺社 五輪塔の転用

第四章 関ヶ原・大坂の役と真田氏

第一節 真田氏と関ヶ原の戦い

一 真田父子東西に分立	123
秀吉の死と東西の対立 真田父子家康に臣従 真田父子上杉景勝攻めに出陣 真田父子東西に分立	126
二 上田城死守	126
昌幸父子と沼田城の信幸夫人 西軍諸将より真田方への勧誘状 信幸上田城攻めの秀忠軍に合流	132
徳川使者信幸父昌幸と会見 昌幸、信繁上田城を死守	132
三 関ヶ原戦後の処分	132
信之、昌幸父子の助命嘆願 真田信之上田城主となる 昌幸、信繁父子高野山へ配流	132
四 配流地高野山での生活	134
生活費に苦しんだ昌幸父子 昌幸高野山から下山の夢消える 病中、高野で上田を気遣う	136
五 真田昌幸の死と信繁の生活	136
昌幸九度山で逝く 信繁の高野での生活 武将信繁の飾らない人柄	136
第二節 真田信繁（幸村）と大坂の役	
一 幸村、大助父子大坂入城 真田幸村、大助大坂入城	140
二 德川・豊臣の対立激化	140
二 大坂冬の陣	142
幸村出丸を築く 信之名代で出陣した信吉、信政 真田丸の攻防 東西両軍和睦	146
三 德川方の幸村勧説としばしの和平	146

徳川方の幸村勧誘工作　幸村と国元との文通

四

大坂夏の陣

東西の和睦決裂　道明寺の戦い　真田幸村隊奮戦

決戦の大坂夏の陣　真田幸村戦死

真田大助秀頼に殉死

第五章 真田氏の支配

第一節 真田氏家臣団

一 真田氏家臣団の形成

(1) 武田氏配下時代の真田氏家臣団

真田氏の知行地　真田氏の軍役量

『真田氏給人知行地検地帳』

(2) 真田氏の自立と武田旧臣の召し抱え

真田昌幸の自立　武田氏旧臣の召し抱え

祢津氏・大熊氏の場合

二 昌幸、信幸の分立と家臣団

上田城主昌幸と沼田城主信幸　沼田への一部重臣の移住　矢沢氏も移住

三 信之の上田領相続と家臣団

(1) 関ヶ原合戦後の措置

上田領の知行宛行　同心の配属替え

浪人した昌幸の旧臣も

(2) 上田領と沼田領の統治

一元的でなかつた信之の領の支配　上田と沼田への重臣の配置

信之、上田領支配に専念

第二二節 真田氏の領内支配

一 貫高で表された村高

真田氏上田領の貫高・石高 小県郡南半分の村々貫高

料所・知行地ほかの内訳

二 料所と知行地

(1) 真田氏料所

料所の設定 二タイプの料所と代官

(2) 家臣知行地

給人とその知行地 西松本之郷知行目録 西松本の知行人と名請百姓

三 農村の整備復興

散使から肝煎へ 郷蔵の設置 盛んに行われた用水堰・ため池の整備 欠落農民とその対策

本年貢の減免・入下

第三節 真田氏松代へ

真田信之松代へ

真田氏家臣被官の欠落

「四十八騎浪人」事件

執筆分担

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

表紙写真 大坂冬の陣図屏風（部分）

裏表紙写真 真田の出丸の攻防戦を描いた箇所

和歌山県九度山町にあり、その敷地が真田昌幸居館跡と伝えられる
善名称院真田庵